

三重医学会会則

(名称・設置場所)

第1条 本会は三重医学会と称し、事務所を三重大学医学部内に置く。

(目的)

第2条 本会は医学の進歩と啓発を図ることを目的とする。

(組織)

第3条 本会の会員は、本会の目的に賛同する者とする。

(事業)

第4条 本会の目的を達成するために次の事業を行う。

- 一 学術雑誌の発行
- 二 学術講演会の開催
- 三 その他本会の目的達成に必要と認められる事項

(入退会)

第5条 本会に入会しようとする者は、所定の申込書により申し出なければならない。

第6条 会員の住所、身分の変更及び退会等の場合は、本会事務所に通知するものとする。

(役員)

第7条 本会に次の役員を置く。

- 一 会長 評議員中から互選する
- 二 幹事 1名 評議員中から互選する
- 三 評議員 若干名
- 四 監事 若干名 会長が委嘱する

(事務分掌)

第8条 役員は次のように事務を分掌する。

一 会長は会を代表する。

二 幹事は会務を処理する。

三 評議員は重要な事項を審議する。

四 監事は会計を監査する。

(機関雑誌)

第9条 本会の学術雑誌は「三重医学」と称し、年4回発行する。発行業務は、三重大学医学部紀要刊行委員会に委嘱する。なお、掲載論文の著作権は、三重大学医学部に移譲されるものとする。

(投稿)

第10条 本会の会員は別に定める投稿規約により、その論著を掲載することができる。

(会計)

第11条 本会の運営は、会費及びその他の収入をもって行う。

第12条 本会の会員は、会費年額2,000円を納めるものとする。

第13条 本会の決算は年1回とし、会計年度は毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

(会則改正)

第14条 本会則の変更は評議員会において行う。
(雑則)

第15条 この会則に定めるもののほか、本会の運営に関し必要な事項は別に定める。

最終改正 平成16年6月16日

適用 第48巻第1-2号(平成16年9月発行)より

「三重医学」投稿規約

1. 本誌への投稿は三重医学会会員に限り、共著者も会員であることを要する。
2. 投稿論文は未発表のものに限り、投稿にあたっては別紙様式の誓約書を添える。
3. 論文は「執筆要領」に従った和文もしくは英文とする。
4. 掲載料は実費を著者負担とする。複雑な原稿又は著者校正3校以上を必要とするものなどは手数料を別に申し受けることがある。
5. 投稿論文の採否は、三重医学編集委員会が行

- い、編集委員長が論文の内容・文章などについての訂正や疑義の解明を著者に求めることがある。
6. 論文の掲載は原則として受理した順とする。
7. 本誌は年4回(6, 9, 12及び3月)発行し、4号分を1巻とする。
8. 校正は2校まで著者校正とする。校正中に原稿を大きく改変することはできない。
9. 原稿(1部)は所定の投稿用マスターシート1部、デジタルファイルと共に下記へ提出する。
10. 掲載論文の著作権は、三重医学会会則第9条

により、いかなる方法・媒体においても三重大
大学医学部が保有する。

〒514-8507 三重県津市江戸橋 2 丁目 174 番地
三重大学医学部図書館 内

「三重医学」編集委員会

電話（直通）059(231)5065

最終改正 平成 16 年 6 月 16 日

適用 第 48 卷第 1-2 号（平成 16 年 9 月発行）
より

「三重医学」執筆要領

1. 原稿は、別紙様式の「投稿用マスターシート」と共に提出する。「投稿用マスターシート」には、著者全員の氏名・その所属・論文の内容を的確に表すキーワード 5 語以内（いずれも対応する英文・英語を付ける.），その他必要事項を記入する。
2. 原稿は Microsoft Word もしくは一太郎で作成し、A 4 判白紙に行間 2 行（double space）で左右それぞれ 3 cm 程度、上に 3.5 cm 程度の余白をとって印字したものとデジタルファイル（以下「ファイル」と呼ぶ.）を提出する。ファイル名は、筆頭著者の姓を英語の大文字で表したものとす。横書き、新かな使い、原則として常用漢字を使用する。
3. 原稿は、1) 表紙、（表題、著者氏名、所属、英文表題、英文著者氏名、英文所属、キーワード）2) 要旨 3) 本文〔緒言・材料又は対象及び方法・結果・考察〕4) 文献 5) 図・表説明の順序とし、それぞれのセクションを新しいページで始める。原稿は文字のみとし、図・表などを張り込んではいけない。要旨の長さは、総説及び原著の場合は 800 字以内、報告の場合は 400 字以内とする。
4. 表は、Microsoft Excel で作成し、A 4 用紙に出力したものとファイルを提出する。ファイル名は Table 1 などとし、ひとつの表をひとつのファイルにする。ひとつのファイルに複数の表を入れたものは受け付けない。紙に出力したのものには、筆頭著者名と表の番号を表 1 などと記す。さらに、原稿本文にも、挿入する個所を表 1 などと記入する。
5. 写真原板は、Adobe Photoshop などで作成し、解像度 300 dpi 以上のプリンターで A 4 用紙に出力したものとファイルを提出する。ファイル名は Figure 1 などとし、ひとつの写真をひとつのファイルにする。ひとつの図が複数の写真で構成される場合は、組写真として作成し、適当なラベルを著者が付す。ファイルは PSD, TIFF, JPEG もしくは EPS 形式とし、他の形式は受け付けない。解像度は印刷時に原則として 300 dpi 以上とし、写真は原則としてモノクロに限る。紙に出力したものには、筆頭著者名と図の番号を図 1 などと記す。さらに、原稿本文にも、挿入する個所を図 1 などと記入する。顕微鏡写真では、染色法、倍率表示のスケールを明らかにする。
6. グラフなどの線画は、コンピュータソフトで作成するか、スキャナーなどで取り込んだ鮮明なものとし、A4 用紙に出力したものとファイルを提出する。ファイルは、EPS, JPEG もしくは TIFF 形式に限定する。解像度は印刷時に原則として 300 dpi 以上で白黒とする。網掛けは、印刷時にもつぶれることなく鮮明に残るものにする。ファイル名は Figure 1 などとし、紙に出力したものには、筆頭著者名と図の番号を図 1 などと記す。
7. デジタルファイルは、上記のすべてを一枚のフロッピーディスク、MO ディスク（Win フォーマット）もしくは CD-R（ISO 9660 もしくは JOLIET フォーマット）に収めて提出する。表面に、筆頭著者名を明記する。なお、原稿・図・表は原則として著者に返却しない。
8. 単位符号は原則として SI 単位を用いる。
(JIS Z 8203 参照.)
例：(1) 長さ km, m, cm, mm, μm
面積 $\text{km}^2, \text{m}^2, \text{cm}^2, \text{mm}^2$ (ha, a)
体積 $\text{m}^3, \text{cm}^3, \text{mm}^3, \text{l}, \text{dl}, \text{ml}, \mu\text{l}$
(2) 質量 kg, g, mg, μg
(3) 時間 d (日), h (時), min (分), s (秒)
9. 標題の中で例数を表わす場合には、アラビア数字を用いる。

10. 一般的に認められている略語以外は説明なしで使用しない。初出の語は正式名を記述し、カッコ内に以下で使用する略語を記入し、略語の意味が理解できるようにする。なお、標題にはできるだけ略語の使用を避ける。

11. 引用文献は本文中に引用した順に、引用個所の該当人名あるいは事項の右肩に、次のように番号を付ける。

Kagan ら¹⁾によれば……

……による行動が現れる^{2, 3)}。

12. 引用した文献は番号順に一括して、本文の末尾に記載する。

記載する事項は次のとおりとする。

1) 雑誌論文の場合：著者名. 論文標題. 雑誌名. 巻数:始頁-終頁 (発行年)

2) 単行図書の場合：

i) 著者名. 書名. 版数. (通覧して引用した場合) 1-最終頁. 発行地, 発行所 (発行年)

ii) 著者名. 分担章標題名. 編者名. 書名. 版数. 引用章始頁-終頁. 発行地, 発行所 (発行年)

3) 学会発表抄録の場合：雑誌論文の場合と同様に記載し、末尾に(抄)又は(Abst.)を付す。

【注】 著者名は全員を記す。著者が複数の場合、著者の間を“,” (コンマ, 一字空け) とする。日本人は姓と名を、欧米人はまず姓を書き、名とミドル・ネームは頭文字だけで省略してよい。この場合、省略を示すピリオドは要らない。欧文誌の日本人名は、欧米人に準ずる。

例：Ballenger JJ, D'Alelio G, Yamada S

編著の場合は、筆頭者のみ記し、「他」又は「et al.」で省略してよい。

なお、本文中では、共著者が3名以上の場合は、「ら」で省略する。

雑誌名は、当該雑誌が略誌名を定めている場

合はそれに従い、定めのない場合は、和文誌は医学中央雑誌、欧文誌はINDEX MEDICUSの採用する略誌名を用い、いずれにも該当しないものは正式雑誌名を記載する。略誌名を記載する場合、省略を示すピリオドは要らない。

例：J Biol Chem J Neurosurg 阪大医誌
通巻頁のないものは巻数の次にカッコ内に号数を示す。

発行年はカッコ内に西暦で記入する。

【記載例】

(1) 雑誌論文の場合

1) 鈴木勉, 吉井利郎, 河合貞子, 柳浦才三.
Morphine 混入飼料適用マウスにおけるMethamphetamineの自発運動変化. 日薬理誌. **83**: 249-254 (1984)

2) 山路徹. 視床下部. ホと臨床. **30** (秋季増刊号): 7-17 (1982)

3) Austin LA, Heath H. Calcitonin: Physiology and pathophysiology. N Eng J Med. **304**: 269-278 (1981)

(2) 単行図書の場合

4) 佐々学. 人体病害動物学. 第1版. 1-最終頁. 東京, 医学書院 (1957)

5) 北村一己. ストレス影響の身体医学のみかた. 石原邦雄他編. 生活ストレスとは何か. 第1版. 172-194. 東京, 垣内出版 (1985)

6) Williams RT. Detoxication mechanisms. 2nd ed. London, Chapman & Hall (1959)

7) Jordon RE. Chapter 39 Pemphigus. Fitzpatrick TB et al. ed. Dermatology in General Medicine. 2nd ed. 310-317. New York, cGraw-Hill (1979)

最終改正 平成16年6月16日

適用 第48巻第1-2号 (平成16年9月発行)
より